

明倫

題字：横村正直

平成十五年一月十五日発行
明倫員連合会公報委員会
発行部数1400部

第3号
03.1.15

歩いて暮らせるまちづくり「まちなかを歩く日 2002」 明倫・まちなか美術館成功裏に終了!

昨年で三回目を迎えた「歩いて暮らせるまちづくり」の明倫学区での取組は、十一月十六日、十七日の両日、「明倫・まちなか美術館」として、京都芸術センターを中心に多彩な催しを繰り広げました。

「京の町家探訪」では、鯉山町の町席天神山町会所、大西清右衛門美術館、紫織庵、吉田家、小島家の六力所を公開。消防団、体振、少年補導の皆様の協力により、ガイド付きで各町家を案内しました。ただ例年より参加者が少なく、約二百八十名でした。



室町通りの六角
錦小路間では
「室町蚤の市」
と銘打ってフリ
ーマーケットを
開催、京野菜な
ど様々な店が約
五十店、折から
の好天にも恵ま
れて大変な人出
で賑わいました。

同時に、芸術センターの運動場と室町通りの建物を、ロープ化した白布で結ぶ「ヒトオリ・プロジェクト」が芸術系大学の学生さんの手で行なわれ、地元の人々や子供たちも巻き込んだ楽しいイベントとなりました。

芸術センター二階の大広間では、お茶に心得のある皆様のご協力により、「まちの生活と文化展・柳水の茶席」が催されました。茶席では見事なお点前を披露、お水屋は寺江さん（六角町）など婦人方により手際よく進められ、お運びは男性陣が担当する趣向で、参加者に好評でした。



美味しいお茶をどうぞ

お茶席の周囲には、皆様から提供して頂いた素晴らしい婚礼衣装や、手土産による屏風などが展示され、明倫学区の持っている歴史と伝統を改めて感じさせられました。

茶席には、近頃の明倫出身者の方も多数来訪され、同窓会的雰囲気でも盛り上がり、是非来年も続けて欲しいとの声がかれました。



同じくセンター二階の講堂では、「明倫コンサート」を開催、婦人会や京都産業大学グリークラブのコーラスと、大日さん（三条町）の琴演奏の美しい音色を約二百名の聴衆が満喫されました。

なお、催しに際しては、多くの企業の駐車場をお借りし、展示では、皆様方の貴重な衣装や美術・工芸品をお借りしました。



大広間で生け花

また、高倉小学校児童の皆さんによる大広間や公開町家での生花により、文字通り花を添えていただきました。今回の取組の成功は、ひとえに学区の皆様によるご協力の賜物と、心から感謝しております。

今後とも是非皆様方のご協力と、まちづくり委員会へのご参加をお願い申し上げます。
明倫まちづくり委員会 井上成哉

新年を迎えて



新しい年を共に迎えることができ、心からお慶び申し上げます。

会長に就任して未だ一年にもなりません、この短い期間に移り変わる世相の変化に驚いています。

デフレ不況で経済の復興が遅れ、雇用問題とて解決できず、国内外に影響を与えています。

一方でテロ事件が止むを知らず、北朝鮮の拉致問題は国際問題として見直されましたが、国交正常化はまだ時の経過を待たねばなりません。

今や全世界が不安のもとにあり、一刻も早く平和を取り戻し、先進国は発展途上国に助力をして人類全体の幸せを得、共存共栄の姿にせねばなりません。

地域に在住する私達は、まず第一に、健康で明るく暮らせるようになければと思います。

明倫自治連合会会の運営も事業内容が多く、思い通りには至りませんが、担当者は夫々工夫をして実行しております。地域の皆さん方の幸運を常々祈念いたします。

平成十五年元旦

明倫自治連合会会長 伊藤祥男

《ヒトオリに参加して》

アートイベント「ヒトオリ」は、白縄で室町通沿いの民家やビルなどをひとつに繋げることで「人と人とが関わり合って町を作っていく」ということを表現しました。

わたしたちが最も大切にしたいことは「コミュニケーションをとる」ということでした。小さなお子さんからお年寄りまで幅広い年齢層の方々に私たちの作品に触れていただくことができました。

日頃言葉
を交わす機会
のない人同士
が楽しい時間
を過ごせたこ
とは「まちな
かを歩く日」
のイベントに
ふさわしく
やってよかつ
たとうれしく
思っています。



また、日常をいつもと違った視点から見る「アート」と呼ばれるものが、皆さんのすぐ近くにもあるということに気づいてもらったとしたら幸いです。

ヒトオリプロジェクト実行委員会

登里 西永

連載シリーズ 明倫学区あの頃の頃

第一回

《昭和十年代室町商家のお正月》

昭和も十年代に入り、二・二六事件（十一年）、日中戦争（十二年）へと進んで行った時代背景の中で、室町の商家ではどのように新年を迎える準備をされ、お正月を過ごされたのでしょうか。当時、番頭さんや使用人七十数名を擁し、手広く白生地問屋を営んでおられたお宅で伺いました。

暮れの二十八日は餅つき。一家総出でお鏡さんや丸餅を沢山つくり、餡餅やおろし餅にして食べるのが楽しみだった。三十日は女中さんがお煮しめの用意、丁稚さんは大掃除等々。

大晦日、番頭さんは集金や支払等、まさに目の廻るよつな猫の手も借りた忙しさだった。除夜の鐘かなる頃から八坂神社へおけら参り。その後年越しそばが振舞われた。

元日は、早朝五時ごろ当主が仏様にお経をあげた後、座敷の上座に座り、家族や番頭さん・使用人達の新年の挨拶を受けた。その後、お屠蘇、頭羊の入った白味噌の雑煮等で新年を祝つた。



お正月の羽子板での羽根つき遊び

この時初物のお漬物を食べるのが楽しみだった。使用人には夫々身分に応じたお仕着せ（新しい着物、足袋等）とお年玉が当主から渡された。

子供たちは学校での四方拝の式（天皇陛下のご真影拝礼、君が代斉唱、教育勅語を拝聴、校長の講話を聞き、お正月の歌を斉唱）に行き、紅白の饅頭をもらって帰宅。

家では親戚の人や別家衆が正装して新年の挨拶に来訪、お屠蘇や祝儀が振舞われた。ご臈原のお茶屋さんから芸妓さんが接待の手伝いに来て、とても華やかだった。

三が日の食卓には、蛤のお吸い物、魚の味噌漬け等。また、家族で桃山御陵に参拝するのが恒例だった。使用人は数入り（里帰り）で各々帰郷。

一日は初風呂。子供の遊びはカルタ、羽根つき、トランプ、双六、凧揚げ、福笑い等々。また、家に獅子舞や三河漫才がやって来た。三日は若夫婦が実家への挨拶、暮参り、

そして、早や使用人は戻ってきてお正月は終わり、四日からは仕事始めた。*時代の雰囲気伝えるため、文中では敢えて当時の呼称を使用しています。

このコーナーでは、二十七町ある明倫学区の各町内を順番に紹介していきます。

第二回 菊水鉾町

古名を「夷三郎町」と云い、恵比寿神を祭神とした「夷山」を出した町。

元治元年(1864)、禁門の変により元の菊水鉾は焼失したが、昭和二十八年鉾頭に透かし彫十六弁の菊を持ち、唐破風屋根を抱いた昭和の菊水鉾として焼失前の華麗な姿を再現した。

寛永十四年(1637)の洛中絵図には「ゑすや町」とあり、他の絵図文献等に「ゑひすの町」とも記され、元禄末期の洛中絵図に初めて「菊水鉾町」の町名を見る。

室町時代中頃には、夷社が町内の東側に存在していて、この社の脇に「菊水の井」の名水が湧き出していた。

千利休の師である武野紹鷗が、この夷社に因んで大黒庵と称し、庵を構えて弟子を持ち茶の湯に親しんだ。



貞享元年(1684)、夷社の焼失により祠堂、神像を失い、「菊水鉾町」と改称した。

近年、分譲マンションが二棟でき(五十九世帯と七十七世帯)、従来の四世帯と会社等二十一店にプラスされて人口は急増した。

金剛能楽堂跡地から出土した「菊水」銘入の井桁石と「菊水の井跡」説明板、『大黒庵武野紹鷗邸址』の石碑を当財団会所を設けたマンション入口付近に配置し、歴史の深さを物語る証としている。

菊水鉾町 川塚錦造

区民運動会のご報告

昨年十月三日(日)、さわやかな運動会日和に、午前九時三十分運動会の開会宣言。その後、全員準備体操から始められました。

各町内会長、プログラム作成のためのご協賛を賜りました各商社の方々、また芸術センターのご協力も頂き、誠に快調に進行致しました。

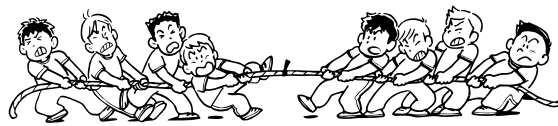
当日は多数の府・市議員、高倉小学校・城巽中学校の各校長、中央区長などにご出席頂きました。

昨年中央区内で一番の人口増加率を示した明倫学区、転入して来られた方も、従来から居住の方も、これを機会に交流と親睦が深められ、地域への理解の一助になればと考えます。開催にあたっては、何度も会合を持ち、準備と後片付けにも多数の方々の協力を頂きました。

次の体振行事としては、本年三月の第一日曜日(九日)にボートリング大会を予定しております。

また、日常の体振のクラブ活動にも学区の方々積極的なご参加をお待ちしております。

体育振興会 会長 市田昌生



時代祭の出仕を終えて

思いもかけず時代祭に出仕させていただくことになりました。

城南流流鏑馬列の三番大将役で、馬に乗ること、乗馬経験のない身にとっては、どうなることかと祭りが近づくと不安が募りました。

当日は最高の天気となり、お世話役の格致学区や明倫学区の皆さまの暖かいご支援で、落馬もせず無事お役目を勤めさせて頂き、感謝申し上げます。

祇園祭とは異なり、京都市全域から参加する祭りの面白さがあります。



白馬に跨がり、胸を張って観覧席前を進む川崎氏

娘と一緒に行列に参加できたこと、多くの友人が応援に来てくれたことなど、思い出に残る時代祭となりました。

二条町 川崎栄一郎

《祇園さんの福鬼行事》

一月の二日、三日、八坂神社の境内で福鬼行事が行なわれ、明倫祭事委員会も出仕します。

厄払いにやって来る福鬼に頭をなでてもらうと、一年の厄から逃れられます。鬼は鬼でも、祇園さんの鬼は災厄を払ってくれる福鬼です。

その他つぎの様な行事があります。
餅撒ぎ(天を寿ぎ大地を鎮める)
舞妓さんの舞踊奉納

年男・年女による豆まき

大判・小判が当たる福豆(くじ)

くじは遠方からの観光客に当たります。氏子の方々に今年は当たります様に。

明倫祭事委員会 中尾金次郎

《「きつずばあくエロ明倫」オープン》

明倫学区では近年、乳幼児が増加しています。保育所や児童館などはありません。

「子供の遊び場がほしい」という声にお答えして月に二回、「きつずばあくエロ明倫」を開きます。

当口は、保育所の保育士、保健師、地域の主任児童委員、社協や福祉事務所の職員などが明倫幼稚園でお待ちしています。是非お越しください。

日時 一月二十一日(火) 十時～十一時半(この間の何時からでも参加可能)

も参加可能)

場所 元明倫幼稚園 遊戯室
対象 就学前の乳幼児とその保護者
持物 お茶、着替、スリッパ等(小さい赤ちゃんは下に敷くバスタオルを)。

内容 自由に遊ぶコーナー
絵本のコーナー
身体測定のコナー

など。参加費は無料、事前申し込みも不要です。

主催 きつずばあくをふやそう実行委員会(中京子育て支援実行委員会) ほか

《お知らせ》

明倫学区の交通安全に地道に活動しておられる交通対策協議会(姥柳町・故池村進一さん)が、連続七百六十日交通死亡事故発生ゼロで、去る十二月十一日、五条警察署から感謝状を贈られました。

《「京都芸術センター」の主

な催し》

デュオの可能性

二人芝居のオムニバス公演 関西で注目を集める若い演劇人たちによる、一時間程度の二人芝居を三チームが日替わりで連続上演します。お得な回数券も発売中。詳しくはセンターまで。

日時 一月二十三日(木)～二十六日(日)

場所 京都芸術センター・フリースペース
料金 前売千五百円、当日千八百円

第262回

市民寄席

出演者「演目」

○笑福亭 生喬「池田の猪買い」

○桂一蝶「正月丁稚」

○林屋 染語樓「鹿政談」

○笑福亭 福笑「破れ鍋に…」

日時 一月二十日(木) 午後七時

場所 京都芸術センター・講堂
料金 前売千五百円、当日千八百円

音楽と市民の広場17

キョウト・カウンターポイント

アジアの広がり その6

曲目

○黛敏郎「弦楽四重奏のためのプレリユーロ」

○パウル・ヒンデミット「グロッツケンシュピール」 フーガ2

台のピアノのためのソナタより「

○フランシス・プーランク「2本のクラリネットのためのソナタ」

○ヤン・P・スウェーリント「半音階的幻想曲(マイヤー編)」

○ステイブ・ライヒ「エイト・ライズ(八重奏曲)」

日時 一月二十八日(金) 午後七時

場所 京都芸術センター・講堂

料金 前売千五百円、当日千八百円

京都芸術センター

075(213)1000

075(213)1000

《高倉小学校の行事予定》

一月七日 三学期始業式

一月七日、八日 全国小学校社会科研究協議会(京都会場)

二月十二日 スキー教室(五、六年生) 雨天のときは一月十九日

二月十四日 新一年生入学説明会

三月二十日 卒業式

三月二十四日 修了式

四月八日 入学式、一学期始業式

以上

編集後記

今回は新たに「明倫学区あの頃の頃」と題した、連載記事のコーナーを設けてみました。その第一回となりました正月風景の中で、現在に使われていない言葉を使うことに委員の間で賛否が分かれましたが、その時代の雰囲気表現するには欠かせないということであえて使いました。『町内探訪』共々学区内のような歴史や伝統をお伝えできればと思っています。

まだまだ、自分でももう少しかなと思うところもありますが、これも一回を経ることにレベルアップしていけると思っています。

長谷川明